

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 規格外農産物等活用促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 流通企画係 電話番号：058-272-1111(内4062)

E-mail：c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 800 千円 (前年度予算額：600 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	600	600	0	0	0	0	0	0	0
要求額	800	0	0	0	0	0	0	0	800
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

農業生産現場での食品ロスの削減に向けては、形状の不揃いや過剰生産などによって販売できず、食用に適しながら廃棄される農産物等の有効活用が大きな課題である。

コロナ禍により生活困窮者や子ども食堂利用者が増加する一方、原材料の価格高騰を背景に食品製造業者等によるフードバンク団体への食品寄付が減少している。

このため、より多くの農業者等が規格外農産物等の活用方法として、フードバンク活動に取り組めるよう、フードバンク団体等とのマッチング支援体制を強化することが必要である。

また、青果物の特性上、タイムリーな情報共有が必要であり、出し手と受け手双方向の効率的な連絡方法を検討する必要がある。

(2) 事業内容

○マッチング支援体制の強化

・各農林事務所に農業者向け相談窓口を設置するほか、県ホームページに問い合わせフォームを開設し、農業者等の寄付以降に関する情報を収集し、農産物流通課が情報を集約する体制を構築する。

・関係部局と連携し、農産物等の提供を希望する団体の希望品目や数量等、フードバンク団体等に関する情報収集をする。

・地域や品目、数量等を踏まえ、県が適切な組み合わせを考え、農業者等とフードバンク団体等による意見交換機会を創出する。

- フードバンク活動の普及啓発
 - ・先進事例や団体間の相互交流を行う研修会を開催
 - ・農業関連イベントでの事例紹介パネルの展示など情報発信
- コミュニケーションツールの活用指導
 - ・費用が発生しない既存ツールのフル活用に向けて専門家と連携し個別指導

(3) 県負担・補助率の考え方

生産者に対する新たな取組みの理解促進・啓発であることから、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

類似事業：食料産業・6次産業化交付金（フードバンク活動の推進事業・国庫）

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	206	講師謝金
旅費	171	費用弁償、業務旅費
需用費	220	研修会資料、啓発チラシ、PR資材、意向調査など
役務費	77	郵送料、電話代
委託料		
使用料	126	会場使用料
補助金		
その他		
合計	800	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県食品ロス削減推進計画

- 1－(3) フードロスチェーンにおける食品ロス削減
- 2－(1) フードバンク活動・フードドライブ等の支援

(2) 国・他県の状況

- ・一部の県でフードバンク活動等の促進に向けた取組を実施（様式10）
- ・農林水産省策定「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた具体的取組みにおいて、本事業の主旨に沿った「持続可能な消費の拡大」が位置づけ。

(3) 後年度の財政負担

生産者等への理解促進を図るため、岐阜県食品ロス削減計画期間中は継続

(4) 事業主体及びその妥当性

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

【フードロスの削減】

未利用食品を食品として活用したフードロスの削減の取組み推進

【体制整備の促進】

令和12年までに、45団体の取組がフードバンク等へ未利用食品を定期的に供給する取組みとして定着

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R12年度)	達成率
①フードバンク等へ未利用食品を定期的に供給する団体の増加数	0	0	7	10	45	0%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・フードバンクについて理解促進を図るHPを県HP内に設置した。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・フードバンクについて理解促進を図るHPを県HP内に設置し、フードバンクの仕組みや活動団体を紹介した。その結果、4件の利用希望者、4件の寄附等希望者からの問い合わせがあり、所要の対応を行った。
	指標① 目標：__7__ 実績：__2__ 達成率：29 %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価)	<p>3 コロナ禍により生活困窮者や子ども食堂利用者が増加する一方、原材料の価格高騰を背景に食品製造業者等によるフードバンク団体への食品寄付が減少しており、農業者とフードバンク団体との連携により、規格外農産物等のフードバンク団体等への供給拡大を図る必要がある。 推進に際しては福祉、子ども関係部局との連携が不可欠であり、県の関与が必要である。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 取組みの拡大に向けて、農業者等の寄付に関する情報を幅広くフードバンク団体に共有することが必要 農産物等は鮮度が落ちやすいため、スピーディーな受け渡し・配送が必要</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか より多くの農業者等がフードバンク団体と連携し規格外農産物等の活用をすることができるよう必要な支援体制の強化を図るとともに、農業者等とフードバンク団体がより効率のよい連絡手段を取れるよう支援する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	<p>【〇〇課】</p>